

# 勝林寺寺報

平成29年6月1日

## 真宗念佛の教え

真宗念佛の教えにこんな言葉があります。

「この世において、どんな人にも、成し遂げられないことが五つある。一つには、老い往く身でありながら、老いないということである。二つには、病む身でありながら、病まないということである。三つには、死すべき身でありながら、死がないということである。四つには、滅べきものでありながら、滅びないということである。五つには、尽きるべき身でありながら、尽きない」ということである」（増支部教典）

この経言は、すでに年老いて余命いくばくもない私にとっては、身にしみて厳しくひびいてまいります。まことにその通りです。しかしながら、仏教徒は、ことに真宗の念佛の教えとは、このような現実の人生と社会における、さまざまなもの限界、危機の状況を、よく超えて、生きていく道を明示するものであります。

今日の日本の社会においては、このような状況に直面した時、神とか仏という、不可思議な靈力をもつたものの存在を前提として、それに向かって、いちばん祈願、祈祷することにより、その威力によって、そういう危機状況を解決しようとする宗教が、数多く存在し、繁盛しています。力の宗教です。そしてそこにはつねに、その神や仏と人間のあいだを仲介する、祈祷師や、靈媒者が存在しております。この人たちは、いつもあやしげなしかもまた、もつともらしい言葉や言動をもって、悩める人々を誘導し、洗脳していきます。そして多くの人々は、このよ

うな宗教に身も心もうばわれ、それについていきます。まことに苦しい時の神だのみ、溺れる者は糞をもつかむ、といわれているとおりです。

在しております。

真宗の念佛の教えとは、そのような宗教とは、まったく違います。それはこの宇宙世界に貫徹している普遍の原理、それは象徴されて、無量

寿、無量光なる、南無阿弥陀仏といわれますが、その心理について学び、それを自分の新しい生命とすることによって、私たち一人一人が、人格的にしっかりと成長を遂げていくことにより、

その厳しい限界状況を、よく受け止め、それをよく超えていくという、人生における新しい道を教えてくれるものであります。だから真宗とは、新しく生きる道を教える、道の宗教であります。

今年もまた、お盆の日がやってまいります。亡き人々のご恩をしのびながら、私たち一人一人の、これからのかな生きる道について、よりよく考えてみたいものです。

（信濃峻齋遺稿法語集より引用）

## サマースクール



出石組では、御同朋実践運動の取り組みとして、昨年より小中学生を対象に「災害対策研修会」を行っています。今年も左記の日程で行われます。参加を希望される方は、寺までご連絡いただきますようお願いいたします。

日時 平成二十九年七月三〇日（日）

会場 出石町鳴 西宗寺本堂

内容 作法指導

防災の話と活動（クイズや消火器の体験）  
ゲーム

申込締め切り 六月二十五日

## 「」案内

### 納骨・研修旅行

五月号でもお知らせしましたが、六月一

七・八日に、納骨研修旅行を行います。締め切りを少し過ぎましたが、今すぐ連絡いただければ間に合います。今年は、宇治の平等院、石

山寺の拝観に加え、前坊守の実弟（すでに他界）の順光寺（滋賀県草津市）にもお参りさせていただきます。ぜひ、お申し込みください。

一日（木） 森戸康雄宅 三回忌  
三日（土） 本覚寺 永代経  
四日（日） 長專寺 前住職一七回忌  
七日（水） NPO法人ダーナ総会

九日（金） 兵庫教区会議員 常備会  
一日（土） 仲田たみ子宅 三・七回忌  
佛婦 おみがき奉仕

一日（日） 出石組 佛婦總会  
七日（土） 勝林寺 納骨研修旅行  
一九日（月） 西方寺 永代経  
二〇日（火） 兵庫教区会議員 常備会  
一八日（日） 勝林寺 納骨研修旅行  
二三日（金） 宮古智慧子 一周忌  
二四日（土） 玉井妙子宅 忌明法要  
二五日（日） 出石組 連研委員会  
二六日（月） みのりを聞く会  
二九日（木） 出石組 念仏奉仕団  
三〇日（金） 出石組 念佛奉仕団

一日（木） 森戸康雄宅 三回忌

三日（土） 本覚寺 永代経

四日（日） 長專寺 前住職一七回忌  
七日（水） NPO法人ダーナ総会

九日（金） 兵庫教区会議員 常備会  
一日（土） 仲田たみ子宅 三・七回忌  
佛婦 おみがき奉仕

一日（日） 出石組 佛婦總会  
七日（土） 勝林寺 納骨研修旅行  
一九日（月） 西方寺 永代経  
二〇日（火） 兵庫教区会議員 常備会  
一八日（日） 勝林寺 納骨研修旅行  
二三日（金） 宮古智慧子 一周忌  
二四日（土） 玉井妙子宅 忌明法要  
二五日（日） 出石組 連研委員会  
二六日（月） みのりを聞く会  
二九日（木） 出石組 念仏奉仕団  
三〇日（金） 出石組 念佛奉仕団

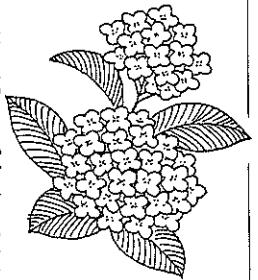
六月 勝林寺 予定



（敬称略）

## 老・死を生きよ

闇をやぶる



朝の光が差し始めて、山陰（やまかげ）の闇の暗さに驚きます。仏壇の前に座って、お念佛申して、如来様の智慧の光に照らし出されではじめて、今日の一日の浅ましい私の闇に気づきます。かたくなに、いこじな私の生涯の愚かさに気づきます。闇を闇だと知らざることは、実は大変なことです。自分の「我執」というからに懸命にとじこもっていた私が見えてきたと、いうことも大変なことです。それには、闇を照らす「ひかり」が必要でした。それは、我のとらわれを破る如来様のお呼び声が必要でありました。如来様というのは、この私の闇のために、十劫（じつこう）という遠い昔から、はたらきつづけていてくださる力です。念佛という如来様のお呼び声は、我のとじこもろうとかたくなにがんばっている私を、いつでもどこでも、呼び覚まさうとはたらいでいてくださる願力です。

思つてみると、私は、その如来様の光や呼び声を、見まい聞くまいとして、かたくなに目を閉じ耳をふさいで（いえ、私が正しいのです）。いえ、私は自分の甲斐性で生きてます・・・）という具合に、如来様を拒否し排除してきたのではないでしようか。美しい蓮の花は、そのようなかたくなな高原や我執の砂漠には生え出ません。清浄な蓮の花は、凡夫煩惱の底湿地のどろみに咲き出ます。「涅槃經」には、「高原の陸地には蓮の花は咲き出さない。凡夫煩惱のどろみの中にこそ如来まします。」と言っています。

一日の終わりには、必ず仏壇の前で手を合わせ、お念佛申します。この一日の浅ましい泥沼の中にこそ仏ましまし、仏呼びたもうことを見念申そうではありませんか。

いかに恵み大きい太陽であつても、まるしくそれをまともに見ることはできません。同じように、老・病・死も、それをまともに見据えるということはなかなか勇氣のいることです。

老いのわびしさ、病のつらさ、死の悲しみといふものを感じれば感ずるほど、私たちは、ひと時でもよいからそんなものから目をそらし逃れてしまうことを願います。逃れることのできる老病死に、目をつぶり背を向けて逃げ回つているのが私たちではないでしょうか。いつまでも若いつもりでいようしたり、どこぞの神や仏に祈願すれば、病から逃れられるように思ひ込んだり、死なんか恐ろしくもなんともないなどと虚勢をはつてみたり。しかし、どんなに目をつぶつてみても、どんなに逃げ回つてみても、老いと病と死は、やがて必ず私におそつてきます。「逃げるな。」とお釈迦様はおっしゃいました。「どんなに悲しくつらくとも、見たくなくめられます。これがお釈迦様の最初のご説法『初転法輪』であったのです。死から目をそらすことは、生からも目をそらすことになるのです。」

この阿弥陀さまの成就させた回向とは、本願力の回向のことです。本願力とは、阿弥陀さまの本願によって実現した救済の力のこと。それが私たちに向かつてはたらき続けることを本願

なれ（『註釈版聖典』五八四頁）

今月の「和讃」には、次のようにあります。  
「阿弥陀の回向成就して 往相・還相ふたつなり  
これら回向によりてこそ 心行ともにえしむ  
なれ」

**往相・還相**  
**ふたつなり**

この阿弥陀さまの成就させた回向とは、本願力の回向のことです。本願力とは、阿弥陀さまの本願によって実現した救済の力のこと。それが私たちに向かつてはたらき続けることを本願

なれ（『註釈版聖典』五八四頁）

今月の「和讃」には、次のようにあります。  
「阿弥陀の回向成就して 往相・還相ふたつなり  
これら回向によりてこそ 心行ともにえしむ  
なれ」

**往相・還相**  
**ふたつなり**

どすん

若葉が青葉となり、木々がつぎつぎに花をつけ、目を楽しませてくれるよい季節になりました。いつもと変わらない光景のように見えるのですが…。思えば今年の始めは、一度味わつてみてください。

この阿弥陀さまの成就させた回向とは、本願力の回向のことです。本願力とは、阿弥陀さまの本願によって実現した救済の力のこと。それが私たちに向かつてはたらき続けることを本願

なれ（『註釈版聖典』五八四頁）

今月の「和讃」には、次のようにあります。  
「阿弥陀の回向成就して 往相・還相ふたつなり  
これら回向によりてこそ 心行ともにえしむ  
なれ」

**往相・還相**  
**ふたつなり**

この阿弥陀さまの成就させた回向とは、本願力の回向のことです。本願力とは、阿弥陀さまの本願によって実現した救済の力のこと。それが私たちに向かつてはたらき続けることを本願

なれ（『註釈版聖典』五八四頁）

今月の「和讃」には、次のようにあります。  
「阿弥陀の回向成就して 往相・還相ふたつなり  
これら回向によりてこそ 心行ともにえしむ  
なれ」

**往相・還相**  
**ふたつなり**

この阿弥陀さまの成就させた回向とは、本願力の回向のことです。本願力とは、阿弥陀さまの本願によって実現した救済の力のこと。それが私たちに向かつてはたらき続けることを本願

なれ（『註釈版聖典』五八四頁）

今月の「和讃」には、次のようにあります。  
「阿弥陀の回向成就して 往相・還相ふたつなり  
これら回向によりてこそ 心行ともにえしむ  
なれ」

**往相・還相**  
**ふたつなり**

この阿弥陀さまの成就させた回向とは、本願力の回向のことです。本願力とは、阿弥陀さまの本願によって実現した救済の力のこと。それが私たちに向かつてはたらき続けることを本願

なれ（『註釈版聖典』五八四頁）

今月の「和讃」には、次のようにあります。  
「阿弥陀の回向成就して 往相・還相ふたつなり  
これら回向によりてこそ 心行ともにえしむ  
なれ」

**往相・還相**  
**ふたつなり**